

学校名 江東区立第二砂町小学校

校長名 神谷 なおみ

(1)「こうとう学びスタンダード(ネクスト・ステージ)」の推進に向けた授業改革の視点・授業スタイルについて

- 自ら課題を見付け、解決する能力を育み、生涯を通じて学習する意欲や能力を培うために、問題解決型の学習や体験的な活動を重視するとともに、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら主体的、対話的、深い学びの授業を展開する。
- 全教育活動の中で、「つかむ」「考える」「学び合う」「まとめる」の四学習過程を確実に行うことで、児童の問題発見力・解決能力を養い、探究的な学習を推進・実施する。
- 「確かな学力」及び「こうとう学びスタンダード」の着実な定着のため、四学習過程の「つかむ」の段階でドリルやフラッシュカードを実践する。
- 学習者用端末等の ICT 機器を効果的に活用し、個別最適な学びの推進を図る。
- 学習者用端末等のさらなる活用を図り、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。



【国語科】

- 江東図書館と連携し、各教科等の単元に合わせて団体貸出を利用する。
- 各教科の中で、本と出会う機会をつくったり、読書カードを活用し各学年の読書量のめあてを決めたりしながら、主体的に読書に親しむ習慣を身に付けられるようにする。
- 学校司書や地域学校協働本部を活用し、図書室の整備を進める。さらに、年2回、読書旬間を設定し読書ボランティアや図書委員会の活用を図り、児童の読書への意欲を高める。



学年等	授業改善上の課題	授業改善に向けた具体的な取組	中間達成状況 ◎○△10月	最終達成状況 ◎○△ 2月
1・2	(1)かたかなの定着に差がある。	(1)音読や読書を推進したり、定期的読み書きの課題を出したりして、定着を図る。クイズやしりとりなど、興味・関心のある練習を取り入れる。		
3～6	(2)語彙力に差があり、漢字が定着していない。	(2)読書通帳の目標冊数達成者の表彰をして、読書への意欲を高めることで色々な言葉に触れさせ、言葉を選び、表現する力をつける。また、ドリルパークや YOMU ワークシート(5年)を活用し、くり返し練習させ、定着度を上げる。		
3～6	(3)情報を読み取り、文章を書く力、自分の考えを文章にまとめる力が弱い。	(3)重要だと考える言葉に線を引きながら読むように指導する。また、話し合い活動を多く取り入れ、より深い読みができるようにしていく。		

3～6	(4)自分の考えを相手に分かりやすく伝える力が弱い。	(4)基本となる発表の話型を指導する。また、音読やスピーチ等を継続的に取り組ませ、言語環境を整える。		
-----	----------------------------	--	--	--

【社会科】

○学習者用端末を活用したKOTスタイルの学習を取り入れ、資料収集、レポート作成、意見交流のツールとする。その結果、情報活用能力を育成し、問題発見・解決能力の力を身に付ける。
 ○「こうとう学びスタンダード」の内容を身に付けさせるために、指導資料を活用して、指導の工夫改善を図る。また、確認テストやチェックシートなどを活用して定着を図る。



学年等	授業改善上の課題	授業改善に向けた具体的な取組	中間達成状況 ◎○△10月	最終達成状況 ◎○△ 2月
3～5	(1)資料の読み取りに個人差がある。	(1)教科書や地図帳、調べ学習で得た資料を読み取る指導を丁寧に行ったり、お互いに説明し合う学習を取り入れたりする。		
4・5	(2)資料やインターネット等を使って情報収集する機会が少なく、力が育っていない。	(2)自分で情報収集する時間を確保する。インターネットの情報を教師が提示する。		
5・6	(3)調べたことを基に自分の考えをまとめ表現していくことに個人差がある。	(3)視覚的な資料を豊富に活用したり、前時までの復習の時間を確保したりして、知識の定着を図る。教科書や地図帳、調べ学習で得た資料を読み取る指導を丁寧に行う。グラフの読み取り等を各教科で取り上げていく。		

【算数科】

○第3学年から第6学年について、課題・習熟度に応じた指導の改善・充実のために、加配教諭による習熟度別少人数指導を行う。四学習過程を確実に実施する。
 ○第2学年については、講師による少人数指導を実施し、基礎的な計算のつまづきに早期対応する。
 ○第5学年と第6学年では、一人1台端末を利用した自由進度学習も実施する。



学年等	授業改善上の課題	授業改善に向けた具体的な取組	中間達成状況 ◎○△10月	最終達成状況 ◎○△ 2月
1～4	(1)国語の読み取りと関連して文章問題の題意が読み取れず、立式できない児童が多い。	(1)文章問題では、数値やキーワードに線を引かせたり、問題場面を図で表したりして表す習慣を身に付けさせ、正しく立式できるようにする。		

2～6	(2)根拠をもとに筋道立てて考えることや、その考えを言葉で表現し、説明することが苦手な児童が多い。	(2)授業の中で、既習事項を活用して自分で考え、問題を解決する時間を十分に取る。そのうえで小グループでの話し合い活動の充実を図る。単元によっては自由進度学習を実施する。		
2～6	(3)九九の暗唱など、基礎学力の定着に課題があり、桁数の大きいかけ算の筆算など、既習事項を利用する学習が苦手な児童が多い。	(3)ベーシックドリルテストの定着率の低い既習単元を中心に朝学習の時間にドリルパークで配信することで基礎学力の定着を図る。講師による少人数指導や加配教諭による習熟度別少人数指導を通して早期に対応する。		
5・6	(4)ICTの活用に慣れていない、苦手な児童が少なくない。	(4)オクリンクプラスやデジタル教科書を使用する時間を単元内のどこかで設定し、活用する。		

【理科】

○理科でのプログラミング教育や、総合的な学習でのスクラッチを使用し、情報活用能力を育成する。
○4年生のエコスペースの活用、全学年でのカーボンマイナスアクションへの取組と環境を意識した教育活動を実施する。



学年等	授業改善上の課題	授業改善に向けた具体的な取組	中間達成状況 ◎○△10月	最終達成状況 ◎○△ 2月
3～6	(1)実験結果を統合したり、身近な事象と結び付けたりして、じっくりと考察する力が十分でない。	(1)予備実験を丁寧に行い、児童の実態をふまえて学習過程を立てるようにする。考察する時間を十分に確保し、考察する視点を絞る。		
3～6	(2)問題から、根拠のある予想や仮説を立てることに個人差があり、課題解決能力の定着が低い。	(2)事象提示を工夫し既習事項や、共通体験をもとに、予想や仮説を立てられるようにし科学的な言葉を用いて考えさせることで、課題解決のプロセスを身に付けられるようにする。		
4～6	(3)ICTの活用について、整理された情報を読み取ることはできるが、特定の情報から関連付けて表現を広げていくことに課題がある。	(3)情報を収集し、スライドや資料を用いて情報を整理したり自分の考えを表現したりできるようにICT活用を推進する。		

【音楽科】

○音楽的な特徴を聴き取り、思いや意図をもって表現する力を育てる。

○友達と協働しながら音楽活動に取り込み、音楽の楽しさを味わえる。

学年等	授業改善上の課題	授業改善に向けた具体的な取組	中間達成状況 ◎○△10月	最終達成状況 ◎○△ 2月
1・2	(1)鍵盤ハーモニカの技能に差がある。(指使い)	(1)鍵盤ハーモニカの練習時間を十分に確保し、上手な児童についての発展的な教材も考えていく。授業の中で計画的に行っていく。		
3～6	(2)歌唱表現、器楽表現すべての表現力を伸ばしていく必要がある。	(2)少人数で歌ったり演奏したりする活動を取り入れる。個に応じた指導を行い、自信をもって表現する力を育てる。また、演奏を聴き合う活動を取り入れ、よりよい表現を求める姿勢を育てる。		
3～6	(3)音楽を日常生活の中に活かせる場面をつくる必要がある。	(3)音楽朝会を毎月実施し、お昼の放送で全校で歌う曲を毎日流す。朝会を通して愛唱歌をつくり、全校での連帯感をもたせる。		
3～6	(4)ICT を活用し、どの子も音楽活動しやすい授業を目指す。	(4)Chromebook を鑑賞や音楽づくり、リズム遊びなどに活用する。デジタル指導書を活用し、視覚的な内容理解の向上を図る。		

【図画工作科】

○児童の表現したい気持ちを大切に授業を展開し、それを支える技術を身に付けさせ、教材を吟味して児童と出合わせる瞬間を大事にする。

学年等	授業改善上の課題	授業改善に向けた具体的な取組	中間達成状況 ◎○△10月	最終達成状況 ◎○△ 2月
3～6	(1)表現したいことに合わせて、材料や用具の扱いや選択が十分ではない。	(1)前の学年で使用した材料や用具を積極的に使用できるよう、復習をして丁寧に進めていく。		
3～6	(2)表したいことについて、自ら想像を広げたり、構成したりする力が十分でない。	(2)新たな発想や構想の手立てとして、児童作品や、見本作品などの提示の仕方を工夫する。自分の考えや思いを具現化できるようにしていく。		
3～6	(3)お互いの表現のよさに気付くが、伝えたり、文	(3)鑑賞の際、題材に応じて、見る視点を明確にする。また、それをどう言		

	章にしたりすることが難しい。	葉や文章で表現していくか全体共有し、個人の活動につなげていく。		
--	----------------	---------------------------------	--	--

【家庭科】

○栄養士と連携した食育を実施する。(レシピコンテスト・野菜の下ごしらえ体験)



学年等	授業改善上の課題	授業改善に向けた具体的な取組	中間達成状況 ◎○△10月	最終達成状況 ◎○△ 2月
5・6	(1)学習意欲に差がある。	(1)具体物の活用や関連する内容を参考程度に話し、自分の身近に感じられるようにして、意欲の向上をはかる。		
5・6	(2)実技の理解や定着に時間がかかる。	(2)調理実習の手順や裁縫の基礎など、説明だけではすぐに忘れてしまうため、くりかえし動画や教科書を見て、定着をはかる。家庭科ボランティアの方のご協力を得たり、栄養士からの指導を受けたりする中で、実技の理解や定着に遅れがある児童のフォローを行う。		

【体育科】

○体育科において、投力の強化を図るために、発達段階に適したボール投げの運動に取り組む。



学年等	授業改善上の課題	授業改善に向けた具体的な取組	中間達成状況 ◎○△10月	最終達成状況 ◎○△ 2月
全	(1)体力や運動能力に個人差がある。	(1)体育の学習で主運動に入る前のわくわくタイムなどで、コーディネーショントレーニング等様々な動きを取り入れるようにする。		
全	(2)投力に個人差がある。	(2)体育科年間指導計画の全学年に投の運動遊びを位置づけ、投力の強化を図る。		
5・6	(3)マット運動や跳び箱運動は、コロナ禍の影響で数年間学習していなかったため、活動技能の低さが目立つ。	(3)基本的な技から丁寧に指導していき、技がどの段階までできているか、確認できるワークシートを工夫する。一人一人の実態に応じた練習ができるよう場の工夫をする。ICTを使用し、自身の動きや技を確認できるようにし、視覚的にも理解しやすくする。		

4～6	(4)他の人の動きを見ながら、良いところを分析して自分の技に生かす経験が少ない。	(4)児童一人一人が、個々の目標を目指し、意欲的に取り組めるような学習カードを工夫する。タブレットで動画教材を適切に活用し、動きのポイントをおさえる。		
-----	--	---	--	--

【外国語科】

○第5学年第6学年の外国語については、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、書くことの言語能力を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質能力の育成を目指す。



学年等	授業改善上の課題	授業改善に向けた具体的な取組	中間達成状況 ◎○△10月	最終達成状況 ◎○△ 2月
5・6	(1)学習意欲に差がある。	(1)ゲーム形式の活動を多く取り入れ、意欲の向上をはかる。		
5・6	(2)基本的な学力が身に付いていない児童が多い。	(2)ドリルパークを活用し、基本的な英単語及び文法の定着をはかる。		
5・6	(3)ゲームの活動になると、楽しむことに夢中になってしまい、外国語の音声や表現が疎かになってしまう。	(3)外国語の音声や表現を意識しながら活動していくよう指導する。		

【生活科】

○入学当初の児童が円滑に学校生活を送れるよう、生活科を中心に教育活動全体を通してスタートカリキュラムを編成し、実施する。

○体験する活動を大切にしながらも、それを振り返る活動を必ず取り入れる。一人1台端末も効果的に使用する。



	授業改善上の課題	授業改善に向けた具体的な取組	中間達成状況 ◎○△10月	最終達成状況 ◎○△ 2月
1・2	(1)「動物・昆虫」に関する学習活動・具体的には動物の継続的な飼育や触れ合いが十分でない。	(1)年間計画を立てる際、継続的に飼育できる教材(動物・昆虫)について、十分考慮する。自然動物園で動物との触れ合いを行う。		
1	(2)入学当初は、45分間授業を行うことが難しい児童が多い。	(2)45分の授業を、15分ごとに区切り、スタートカリキュラムを実施する。		